

「ブラウザブルウェブポスター」のおすすめ

学術集会のポスターセッション

現地開催の学術集会でよくみられるポスターセッションは、ひろいスペースにならんだポスターパネルのそれぞれに貼られたポスターのまえで、発表者が参加者の質問にこたえたり、内容を簡単に説明したりします。かつては、A4判やB4判の用紙にプリントアウト（あるいはコピー）した図や表、まとめなどをならべて貼ることが多かったので、それぞれの図表の意味やそのつながりについての発表者の説明が必須でしたが、大型プリンタが登場してからは、A0判程度の用紙1枚にプリントアウトしたものがつかわれるようになって、「説明なし」でもわかるものをめざすポスターがほとんどになってきました。表彰のための審査でも「ポスターそのものの『でき』」が評価基準にひとつになっていることもあります。

ポスターセッションの議論と審査

ポスターセッションは、発表者がポスター

の前にたっている時間がきまっています。それ以外の時間でもポスターを掲示している場合には、ポスターをみることはできますが、議論はできません。参加者は、プログラムをみたり、それぞれの発表の要旨（口頭発表の場合とおなじように要旨を提出することがほとんどです）をよんだりして、興味あるポスターを見にいけますが、その途中で目にとまったものや、目的のとなりのポスターで議論することにも可能です。また、審査を委嘱されている参加者は、審査を担当するポスターが指定されている場合には該当のポスターをみることになりませんが、それ以外のポスターでも議論したい場合がありますし、ポスターぜんぶのなかから優秀なものをえらぶという審査方式の場合には、できるだけ多くのポスターをみる必要があります。

オンラインの学術集会

コロナ禍のため、ほとんどの学術集会がオンラインで開催されてきました。口頭発表

は、日本にかぎらず海外でもZoomミーティングというオンラインアプリケーションをつかって行われることがほとんどです。これにより、口頭発表については、現地開催とおなじように発表と議論が可能ですし、むしろオンラインならではのメリットもあります。複数会場で並行して口頭発表がおこなわれる場合には、ブレイクアウトルームをつかっておこなわれます。場合によっては会場間の移動は現地開催よりスムーズかもしれませんし、主催者や実行委員が、全会場にどうじにメッセージをおくることも可能です。

オンラインのポスターセッション

では、ポスターセッションはどうなったでしょうか。ほとんどの場合、口頭発表とおなじようにZoomミーティングのブレイクアウトルームあるいはSpatialChatなどのオンラインアプリケーションをつかって、それぞれの「小部屋」で発表者がポスターを掲示して待機し、はいつてきた参加者と

議論します。ポスター（現地開催のポスターとおなじように「たてなが」のポスターを掲示（画面共有）している場合はもちろん、「よこなが」のポスターでも）のそれぞれの図や表はちいさいので、見やすいように一部だけを拡大して表示することもあります。学術集会によっては、「数枚程度のスライドを共有してもよい」という場合もあります。これだと、「少人数の『小部屋』でひとりずつと対話する口頭発表」です。

「小部屋」ポスターの致命的欠陥

問題は、このような形式では、本来のポスターセッションのメリットがうしなわれることです。まず、現地開催なら、発表者がほかの参加者と議論しているときでも、ポスターのべつの場所をチェックしたり、まっている間にとりよりのポスターをみたりが可能ですが、これができません。また、ポスターはそれぞれの「小部屋」に入場しないとみることができませんから、現地開催なら可能な「複数のポスターをざっとみる（ブラウズ）」ことが不可能です。これまでサポートしてきた「小部屋」ポスターセッションの学術集会におけるアンケート調査では、とくに審査員からの不評が多く、「ブ

ラウズできないと公平に審査することがむずかしい」という意見が多くよせられます。

議論を共有/記録できない問題点

現地開催のポスターセッションについては、そのフォーマットが「かたまって」いるため議論されることはありませんが、いくつかの要改善点があります。その第一は「議論の記録がのこらない」ことです。それぞれのポスターでどの程度の議論がおこなわれたのか（「人気があった」のかあるいは「閑古鳥が鳴いていた」のか）がわかりません。また、それぞれの議論も、発表者をのぞけば「その場にいわせた」ひとだけしかわかりません。つまり議論を共有できないのです。ポスターの「でき」がわるいと、しめされていない重要な情報についておなじ質問ばかりがくりかえされ、肝心の「議論したいこと」にたどりつかないかもしれません。また、発表者がメモをとったとしても、質問者の真意をつかんでいかどうかはわかりませんし、学生の発表の場合に、指導教員がずっとポスターの前（あるいは「小部屋」）にいたことがむずかしい（むしろ「はばかりられる」のがふつうでしょう）ため、どんな議論がおこなわれたか

を正確につかめないこととなります。なお、かつて「触媒討論会」における口頭発表での議論が記録されて会誌に掲載されている時期もありましたが、現在ではこのような記録の共有の例はないようです。

学術集会での発表と議論の目的とは

議論をもとにして研究成果をより客観的、つまり「だれもが納得する」ものにするのであり、これが最優先事項です。論文を投稿したときに、審査員の意見にもとづいて原稿を改訂するのとおなじプロセスです。議論の記録と共有がなければ、現地開催と「小部屋」でのポスターセッションのいずれでも「発表がおわれればすべて終了」になりかねません。逆にいえば、「議論の記録と共有」を可能にすれば、オンラインのポスターセッションが、現地開催でのポスターセッションをもうわまわる、本来の目的により近づけたものになります。

ブラウザブルウェブポスター

「小部屋」ポスターセッションの致命的欠陥である「ブラウズできない」点を解消し、かつ「議論の記録と共有」を可能にするのが、「ブラウザブルウェブポスター」です。

参加登録して、ウェブシステムから「ウェブポスター会場」に入場すると、すべてのポスターをブラウズすることができます（[全体表示]）。表示サイズはパソコンのモニター画面でまりますが、それぞれのポスターだけを表示する[個別表示]し、さらにそのポスターを拡大して見ることも可能です。議論はいわゆる「チャット」形式で、この[個別表示]で質問を入力できます。発表者はおなじく[個別表示]で回答できます。チャット形式ですので、画像などのデータを議論にふくめることはできませんが、インターネット上にある情報であれば、そのURL（リンク）をふくめることも可能です。すべての議論は、[全体表示]にも表示されますので、参加者はポスターだけでなく、この議論もすべてブラウズできます。また、質問者は、発表者の回答に対してコメントすることも可能です。

ポスターが要旨そのもの

オンラインで未発表のデータを公開すると、「既発表」としてとりあつかわれ、論文発表ができなくなるリスクがありますが、ブラウザブルウェブポスターで掲示されるポスターは要旨そのものです（したがって

ポスターとは「べつ」の要旨はありません）からその心配もいりません。現地開催、オンライン開催のいずれでも、冊子体の要旨集を発行することはほとんどなくなり、参加登録者が各自ダウンロードする方式になっています。印刷の時間は不要ですから、要旨であるポスターのアップロード期限は（フォーマットのチェックをみこんでも）公開のぎりぎりの直前に設定できます。

フレキシブルな発表期間

口頭発表もある学術集会では、要旨としてのポスターを口頭発表の要旨と同時期に公開することになりますが、実際の会期よりまえに公開できますから、ブラウザブルウェブポスターは、会期よりまえに公開して、チャット形式の議論をはじめることができます。また、質問に対する回答は、表彰審査での制限がないかぎり、会期中までと設定されます。このため、参加者の質問も、それに対する発表者の回答もいつでも「つごうのいい」時間におこなうことが可能です。また、会期後は（新規の質疑応答なしで）任意の期間において公開可能です。

議論の記録と共有

このようにブラウザブルウェブポスターでは、すべての議論を記録し、公開期間中は全参加登録者が共有できます。これは、おなじ質問と回答のやりとりを不要にするだけでなく、ほかの参加者との議論をもとにして、さらにふかい議論が可能となります。また、審査員は、直接議論にくわわらなくても、発表の内容を評価することが可能になります。なお、公開終了後も、発表者は質疑のテキストファイルをダウンロードできるようになっています。

ポスターショートトーク

現地開催のポスターセッションでも、数分程度、壇上でスライドをつかって説明（質疑応答なし）する場合があります。ポスタープレビュー、ポスターパレードあるいはフラッシュトークとよばれることもあるこのトークは、発表者にとっても、参加者にとっても有益です。ブラウザブルウェブポスターを採用していただいている学術集会ではすべて、このトークを会期中のはやい段階でおこなってきました。このトークはオンラインで実現可能です（実際に壇上でスクリーンに映写する場合とちがうのは、「ポ

インタ」をつかえないことだけです)。

企業展示も可能

現地開催の場合に、協賛企業の展示をしてもらうことがあります。多くの場合、ポスター会場にこの展示ブースがおかれますが、オンライン開催ではこれできません。しかし、ブラウザブルウェブポスターをつかえば、資料をオンラインで表示し、かつ、インタラクティブな問い合わせと回答が可能です。冊子体の要旨集やプログラムを発行していたときに、広告を掲載することによって協賛金をえていた時代は終わりました。ブラウザブルウェブポスターを採用することにより、ポスターセッションがない場合でも、現地開催の場合でも、協賛企業をつのることが容易になります。

現地開催でもおすすめ

「小部屋」方式をふくめたオンラインでのポスター発表は、現地開催のポスターセッションの代替ととらえられることがほとんどですが、これまでのべてきたように、ブラウザブルウェブポスターは、現地開催のポスターセッションとはべつの、かつより多くのメリットをもつ発表形式ととらえる

ことができます。したがって、口頭発表が対面（あるいはオンラインとの併用）でおこなわれる場合でも、ポスター発表としてブラウザブルウェブポスターを採用されることをつよくおすすめします。

実行委員の負担はほぼゼロ

ブラウザブルウェブポスターが組みこまれているウェブシステム「学会運営エンジン touche (トウシェ)」は実費だけで提供しています。その目的は、発表、参加登録の受付、プログラム編成から、座長、審査員の依頼や投票結果の集計、要旨ファイル、参加登録、発表証明書や受賞者の表彰状のダウンロード、さらに発表者、登録者へのメール配信など、ウェブ上で実現可能な機能をすべて実装（プログラムは機会あるたびに改良）することによって、ボランティアの実行委員や世話人、とくに実務をまかされる若手研究者の負担を可能なかぎりへらすことにあります。ポスターセッションを現地でおこなうことを想像してください。ポスターパネルの確保、貼付用ピンの準備、当日のパネルの設置、ポスター番号票の出力と貼付、終了後の「はがしわすれ」のポスター撤去とパネルの回収。ブラウザ

ブルウェブポスターでは、これらがすべて不要です。なお、現地でのポスターセッションの場合でも、「学会運営エンジン touche」をつかえば、要旨ファイルへのリンクのQRコードがはいったポスター番号票をクリックひとつで出力可能です。

ぜひデモで実感してください

ブラウザブルウェブポスターはこれまでにない発表形式ですので、ことばで説明しても、あるいは実際のスクリーンショットをみていただいても、ご理解いただくのはむずかしいかもしれません。すでに「学会運営エンジン touche」をご利用いただいている学術集会では、ほかの学術集会の関係者へのデモンストレーション（デモ）をする許可をいただいております。デモや「学会運営エンジン touche」のご説明はいつでも承りますので、下記までご連絡ください。

特定非営利活動法人 touche NPO

理事長・大谷文章

060-0004 札幌市中央区北四条西14丁目1番地6 ライオンズガーデン植物園414号

090-1309-1350

bunshohtani@gmail.com